

# オンラインツールを用いたピア・レスポンスに関する授業実践の動向

## Trends in Class Practice on Peer Response Using Online Tools

胡 芸群\*, 山口 昌也\*

Ichun KO\*, Masaya YAMAGUCHI\*

\*国立国語研究所

\*National Institute for Japanese Language and Linguistics

### 1. はじめに

ピア・レスポンス（以下、PR）とは「学習者が自分たちの作文をより良いものにしていくために仲間同士（peer）で読み合い、意見交換や情報提供（response）を行いながら作文を完成させていく活動方法」（池田 2004）である。

これまでは、対面での活動が主流だったが、ICTの普及に伴い、コロナ禍以前からコンピュータを媒介した非同期型のPRの実践も行われている。また、コロナ禍以降、多くの大学において、オンライン授業が実施され、オンラインツールを活用した同期・非同期型PRの実践も報告されている（嶋田ほか2022など）。



今後、LMSを活用した対面・オンラインのブレンド型授業において、PRをどのように効果的に実施できるのか、その方法や課題に関する知見を得ることは意義があると考えられる。そこで、本研究では、オンラインツールを用いたPRの授業実践を報告している論文をレビューし、実践への示唆を得たい。

### 2. 研究方法

#### 2.1 対象論文の選定

本研究では、「オンラインツールを用いたPR」を分析対象とする。文献について、CiNii（国立情報学研究所（NII）が提供する論文情報データベース）にて、「オンラインOR非対面」「ピアレスポンス」をキーワードにAND検索を行った結果、33件がスクリーニングの対象となった。対象文献全てを確認し、オンラインツールを使用していない文献、発表要旨や書評におけるPR実践研究は対象外とした。最終的に分析の対象としたのは19編である。

#### 2.2 分析データの作成

論文著者である教師のPR実践の目的、PRの実践方法、使用したオンラインツールに着目して論文を読み込み、分析項目ごとに該当する論文を集計し、分析データとした。分析項目にはCiNiiに記載されている一般情報項目に加え、授業対象者、作文テーマ、論文の問い、研究デザイン・方法、PRに対する評価などを入力して一覧表を作成した。

### 3. 結果と考察

#### 3.1 オンラインツールを用いたPRの実践動向

教室において、対面によるPRの実践は2000年頃から実施されてきた。一方で、オンラインツールを用いたPRの実践は2010年頃から実施され、徐々に対面PRから非対面PRへ移行し、Moodleが主なオンラインツールとして用いられた。さらに、2020年のコロナを契機に、オンラインツールを用いたPRの実践が大幅に増え、Moodleのほかに、Zoomやmanabaなどのオンラインツールが使用されるようになった。

##### ・2010年以前

メール、SNSを用いて、遠隔で作文添削

##### ・2018年以前

対面から非対面（非同期）、非対面・非同期型ピア・レスポンスの実施  
主な利用ツール：Moodle

##### ・2019年以降

オンラインツールを用いて、同期・非同期型ピア・レスポンスの実施  
主な利用ツール：Zoom、manaba

#### 3.2 オンラインツールを用いたPRの活動タイプ

オンラインツールを用いたPRの活動は表1の通り、主に4つのタイプに分けられる。また、PRの形態として、同期型、非同期型、混合型の3つに分けられる。

表1 PRの活動タイプ

授業形態	PRの形態
1対面授業	対面と非対面（混合型）
2対面授業	非対面（非同期型）
3オンライン授業	オンライン（同期型）
4オンライン授業	非対面（非同期型）

### 3. 結果と考察

#### 3.3 PR活動で使用するオンラインツールの種類

PR活動でよく用いられたオンラインツールには、Moodle、manaba、Zoom、Googleドライブ、Google Classroom、TEachOtherSなどが挙げられる。

表2 オンラインツールの種類

PRの形態	使用するツール
対面と非対面	Moodle
非対面（非同期型）	Moodle、Googleドライブ、Google Classroom、manaba、Word、TEachOtherS
オンライン（同期型）	Zoom、Googleスプレッドシート、manaba

#### 3.4 PRの授業に見られたオンラインツールの機能

##### 3.4.1 オンラインツールを用いたPRの授業形態

###### ・オンラインツールを用いたPRの授業：

- ①日本人学生を対象とした初年次教育
- ②日本語学習者を対象とした日本語教育

###### ・PR活動のグループ編成：

- ①4～6名または2～4名
- ②教師または学生同士で決める

###### ・作文のテーマ：自己紹介文、説明文、意見文、レポートなど

##### 3.4.2 活動別に用いられたオンラインツールの活用方法

PRの授業において、活動内容によって、使用するオンラインツールが異なっている。まず、Moodleは主に学生が書いた文章を提出する際に用いられる。また、グループによるPR時に、文章の共有、添削の共有としても使われている。一方で、manabaは教師が授業管理をする際に、資料・課題の配布、成績の管理などに使用されている。Google Classroom、ドライブ、フォームに関しては、それぞれ文章の提出、文章の共有・添削の共有、振り返りシートの記入・提出などを活用していることが確認された。さらに、Zoomに関しては、ブレイクアウトルームセッションを使用し、文章の共有と添削の共有が可能であることが確認された。

表3 オンラインツールの活用方法

Moodle	文章の提出、文章の共有、添削の共有
manaba	資料・課題の配布、掲示板機能を用い、コメント記入、文章の提出、成績の管理
Google Classroom	文章の提出、資料・課題の配布
Google ドライブ	文章の共有・添削の共有
Google フォーム	活動に対する個人の振り返りシートの記入・提出
Zoom	ブレイクアウトルームセッションを用い、文章の共有、添削の共有

### 4. まとめと今後の課題

本研究では、オンラインツールを用いたPRの授業実践を報告している論文をレビューした。分析の結果、オンラインツールを用いたPRの活動は、主に4つのタイプが確認された。また、PRの形態として、同期型、非同期型、混合型の3つが見られた。さらに、PRの実践においては、Moodle、manaba、Zoom、Googleなどのオンラインツールを活用していることが確認された。

なお、本研究では、オンラインツールを用いたPRと対面によるPRとの比較は行うことができなかったため、今後の課題としたい。

### 謝辞

本研究は国立国語研究所の共同研究プロジェクト「日本語学習者の作文教育支援研究」の一環として行われた。

### 参考文献

池田玲子（2004）日本語学習における学習者同士の相互助言（ピア・レスポンス）。日本語学23-1, pp.36-50

嶋田みのり・斉藤幸一・宮原千咲（2022）LMSを活用した非同期型ピア・レスポンスの実践の試み。アカデミック・ジャパニーズ・ジャーナル14, pp.1-8